

市民協働の まちづくりフォーラム



《日時》

平成20年11月30日（日）

午後1時30分～3時40分

《場所》

市民体育会館 2階 大会議室

約 50 名の市民の皆さまにご参加いただき、市民協働・市民活動推進協議会が運営の市民協働のまちづくりフォーラムを行いました。

今回のフォーラムは、「[市民協働のまちづくりガイドブック \(PDF形式\)](#)」の内容を広く市民の皆さんに伝えることにより、協働を生むことが目的です。

《プログラム》

司会：齋藤雅治委員

◆市民協働のまちづくりについて

- ① ガイドブックの内容説明及び市民自治によるまちづくりを進める仕組みについて
- ② ガイドブックに込めた私の思い
- ③ 私たちのまちづくり：江南市地域まちづくり補助金

◆グループに分かれての意見交換

- 「どんなことがいっしょにやれたらいいと思いますか」
- 「それによってどんなことが期待できるでしょうか」

◆まとめ：ガイドブックの広がりによって期待できること



◆市民協働のまちづくりについて

「市民協働のまちづくり」について、それぞれの視点からお話いただきました。

① 地域協働課長

2年にわたり42回もの会議で議論を重ねて作成されたガイドブックには、市民協働を推進するために必要なもの（市民活動の運営ルール、市が取り組むべき施策、市民参画制度の確立等）が掲載されています。市は今後、このガイドブックを指針として行政運営を行うとともに、市民参画制度のさらなる充実のために、自治基本条例の制定を目指していきます。



② 市民協働・市民活動推進協議会委員（元市民協働研究会委員）

岩根委員

市民協働研究会には、一般市民、NPO関係者、行政職員等、様々な立場の方が参加しており、ガイドブック作成作業自体が「協働」でした。

ガイドブックの特徴は、「個人」を大切にしているところだと思います。協働に参加する

人全てが、誰でも皆一人の個人として対等です。一部の人が引っ張って進む「機関車」ではなく、皆が力を出し合って進む「電車」のように、皆が対等の立場でまちづくりを進める必要があります。

太田委員

協働のまちづくりとは、一人ひとりが気付いたことを人の輪で広げ、社会化していくことだと考えます。そのために、市民、市職員それぞれが意識を変え、能力開発をしていく必要があります。また、目的・目標を共有する必要があります。各々の様々な活動も、役割分担しながら共通の到達点に向かっていけば、一つの大きな力となります。



まちづくりには時間がかかります。一人ひとりの視点を皆のものにするような取組みを少しずつ進めていきたいと思えます。

藤田委員

昨今、人の心がすさんでいます。平成 16 年にこみなみコミュニティの活動に関わったとき、顕著にそう感じました。また、日本の若者の多数が「夢がない」と感じているとの新聞記事もありました。

私は様々なボランティア活動や市民活動に際し、「もの」のためではなく、「心」のための活動をしたいと考えています。市民の皆さんと共に江南市に住んでよかったと思えるようなまちづくりを行っていききたいと思えます。

③ 平成 20 年度江南市地域まちづくり補助事業実施団体

[江南市に花いっぱい、元気いっぱい \(PDF形式\)](#)

毎日通る道の脇が、雑草で荒れているのが気になっていました。花が好きだった母の影響で「花かたばみ」を知り、花期が長く雑草を抑える性質が道の景観を整備するのに有効ではないかと考えました。



現在は花の植付が終わり、花が育つまで除草などをして根気よく管理を続けています。

皆さんの地域で「花かたばみ」を植えたい場所があれば教えてください。

[ウッドバーニング \(焼き絵\) \(PDF形式\)](#)

補助事業には地域団体との連携が必要でしたので、親子のふれあいの機会をつくる事を目的に保育園の保護者会を連携団体とし申請しました。

6 園中 3 園が終わりましたが、保護者会から「よかったよ」との意見、手紙をもらっています。詳しくは 3 月の報告会で発表したいと思えます。ウッドバーニングの楽しさを伝えながら後半事業も進めていきたいと思えます。

少しずつ活動の機会が増えてきました。今後は公民館など公共施設の活用も検討し、活動していきたいと思えます。

◆グループに分かれての意見交換

D	ごみ減量、環境保全	①	E	防災、防犯、交通安全
B	健康づくり、福祉、介護	②	C	生涯学習、文化、スポーツ
A	子ども、子育て支援、教育	③	F	国際交流、多文化共生、平和

3つのグループにわかれ、普段の生活・活動の中でこうなったらいいなと思う「夢」について意見交換をし、まとめた意見をグループごとに発表しました。

① D+Eグループ

《地域をつなぐ拠点の設置》 公共施設等を有効に利用し、活動の拠点があるまちへ

- ・地域のつながり交流会
- ・地域の防災意識を高めたい
- ・資源循環サイクルをつくる（空き地利用、観光利用等）
- ・リサイクルステーションを実現させる
- ・公園や学校などで落ち葉の堆肥化
→地域町内会や老人会等の連携 etc…



いくつかのキーワードが出た中で共通するのが、「地域をつなぐものを大切にすること」でした。つなぐものとしては、リサイクルステーションなどの活動の拠点が挙げられます。待ち合わせの場所になるような、人が集まるステーションが必要だと考えました。

公共施設を利用して地域とのつながりを持ったり、環境学習を通して学校とのつながりを持つことも必要だとの意見が出ました。

② B+Cグループ

《地域の輪を広げる》 地域の課題を知る・気付くネットワークが構築されたまちへ

- ・健康ボランティア活動を地域で広めたい
- ・松竹住宅に花かたばみを咲かせたい
- ・「いこねっと江南」地域情報サイトをもっと宣伝し活用したい
- ・近所のお年寄りのお手伝いのような仕事、声掛けだけでもいい
- ・認知症サポーターを増やし、地域の認知症の人や家族をサポートしたい etc…

こうしたい！という思いがあり活動はしていても、広がりが無いとの意見が共通認識でした。よって「地域の輪を広げること」が必要であり、地域力を高めることが重要だと考えました。

例えば、健康づくりボランティアの活動を尾北シニアネットがインターネットを利用し情報伝達する協働や、認知症サポーター養成を包括支援センターで行う協働など、地域力を高めて協働を進めていくことが大切だと考えました。



③ A+Fグループ

《江南市大家族化計画》 子どもからお年寄りまでが手と手を取り合い安心して暮すまちへ

- ・子育て祭り（赤ちゃん講座、子育て相談、食の話）→子育てだけのお祭り
- ・近隣の団体とのコミュニケーションにより活動の充実を図りたい
- ・子ども達のしつけを教える教室
- ・高齢者と乳幼児のふれあいタイム
- ・自然に親しみながらキャンプできる場所 etc…

様々な「夢」の解決策は、江南市が大家族のように家族ぐるみで付き合える町になることだと考え、皆があいさつし、皆が知り合いである町づくりを行おうとの意見が出ました。

子育て祭り、高齢者と乳幼児のふれあいタイム、自然に親しみながらキャンプを行う等、地域、団体、親子、世代、自然…様々な「ふれあい」をテーマにした催しを開催してはどうかとの意見が出ました。



◆まとめ：ガイドブックの広がりによって期待できること

市民協働・市民活動推進協議会会長であり愛知江南短期大学教授の加藤幸治会長より、フォーラムの総評をお話いただきました。

「市民協働のまちづくりガイドブック」は市民協働研究会の皆さまの強い思いからできあがりしました。このガイドブックは市民協働の指針であり、市は今後、住民自治実現のためにその内容を広く周知していく必要があります。皆さまにも、色々な場で広くPRしていただけたらと思います。

今日は、まちづくりについて意見し合う貴重な場となりました。意見交換の結果、共通して発表されたのが「つながりを大切にする」との考え方だったように思います。昨今、人との関わりが少なくなったと感じますが、これからは人と人との交流が必要です。「つながり」を大切に、皆さんの力で市民協働のまちづくりを実現していただきたいと思います。



《アンケート結果（PDF形式）》

- ・他団体との意見交換できる機会を今後も設けてください。
- ・意見を交換するには、時間が足りない。
- ・市の職員さんの意識の低さにがっかりすることがあります。能力開発に力を注いで欲しいと思います。
- ・地域まちづくり補助金採択事業の内容を聞くことができよかったです。
- ・この会議で出された様々な意見を、今後どう集約して実行に移すのか、検討を重ねることこそ必要があると思います。



etc…